



隊友千葉だより

平成24年11月号 千葉県隊友会事務局

〒260-0042 千葉県千葉市中央区椿森1丁目26-9コンラッドビル4階 電話 043-306-2095 FAX 043-306-2096
電子メール chibataiyuu@angel.ocn.ne.jp ホームページ http://www.chibataiyuu.com/

【事務所 開所時間】
原則として月・水・金 1000~1500
(月・水：土屋 金：内田)

護国神社秋の大祭に奉仕 清掃等を延べ46名で実施

10月8日(月)及び10日(水)の2日間に行われ、秋の大祭に伴う奉仕を行った。

8日は、過去最大、32名の大人数で社殿周り、境内及び「ああ特攻」碑周辺の除草・清掃を約3時間にわたって徹底的に行い大祭の備えを万全にした。集めた雑草・落ち葉等は大型ゴミ袋120個を越え、さすが元自衛隊員と社関係者をうならせた。10日大祭当日は、14名をもって続々と参集されるご遺族・来賓の乗車車を駐車位置へ誘導し、大祭のスムーズな開催に寄与した。

大祭は、秋晴れ、爽やかな風の中、約1千名のご遺族・来賓の参列を得てしめやかに行列が繰り出された。約5万7千余柱の御霊を感戴した。山田会長は、県隊友会を代表して参列、玉串を奉奠した。自衛隊からは阿部 智地本長及び大井一史第21航空群首席幕僚が参列された。江口一雄護国神社奉賛会会長は、挨拶の中で、国のために亡くなった人を敬う気持ちがなければ日本の再生はない。国民は、東日本大震災で示されたようにわが身を犠牲にして国につくす自衛隊員、警察官、消防隊員を敬う気持ちを持たないといけないと述べられた。また竹中啓悟宮司は、大祭の謝辞で再三にわたり、隊友会の支援に感謝の意を表された。



清掃参加者



交通統制参加者(細谷儲行会会長、竹中宮司、瀬川英霊にご参る会会長とともに)



清掃・交通統制



御神楽奉納(靖国神社仕女)



琉球舞踊奉納

平成24年度自衛隊観艦式

観艦艦「くらま」の直後を進行する自衛艦「ひゅうが」に招待を受け山田会長が乗艦。艦艇40隻及び航空機23機が参加、海上自衛隊の威容を国内外に示した。乗艦した「ひゅうが」には、3自衛隊殉職者遺族会、援護協力会及び隊友会等の招待者が招かれており、歓迎の一環として、ロンドン五輪メダリスト(小原一陸尉等)の挨拶を聞くことができた。



平成24年度自衛隊殉職隊員千葉県追悼式



自衛隊殉職隊員千葉県追悼式 平成24年10月6日
陸上自衛隊第1志津駐屯地「鎮の庭」

陸自高射学校長兼下志津駐屯地司令 掛川壽一陸将補は、10月6日(土)11時から下志津駐屯地において追悼式を執行し、殉職隊員46柱の御霊を感戴した。式は、雨も上がり、金木犀の香りが漂う中、千葉稲毛及び四街道支部会員によって見事に清掃・剪定された「鎮(しずめ)の庭」において、ご遺族17名、奥野・田嶋両衆議院議員、石渡千葉原副知事、県議会議員23名、板倉印西市長、四街道市議3名、千葉市議2名、県内陸・海・空自衛隊指揮官全員、阿部地本長、各自衛隊最先任上級曹長、渡辺父兄会会長、太田援護協力会会長、鈴木郷友会会長、細谷儲行会会長、伊東下総水交會会長代理、江口自衛隊協力会事務局長、千葉県防災危機管理課副参事・課長2名を来賓に迎え、滞りなく厳粛に挙行された。県隊友会からは山田会長始め支部長等総計17名が参列し、現役隊員と一体となり、ご遺族とともに殉職隊員を悼んだ。式後、行われた追悼会食では、小野原海自教育航空東団司令官に続き山田会長が挨拶した。



掛川司令 追悼の辞



山田会長 献花



追悼会食

事務局からの連絡事項
◆ボランティア人材バンクへの登録及び資格取得支援
隊友会は、会の実施事業である防衛・防災関連施策等に対する協力、防衛に関する調査研究、自衛隊諸業務に対する協力、慰霊・顕彰及びその他に係るボランティアを人材バンクに登録し、自治体、自衛隊等からの支援依頼に応じ、登録会員を派遣して支援する体制をとっています。県では正会員で、これらの隊友会実施事業に係る支援のできる方で人材バンクに登録を希望される方を募集しています。また、隊友会は、このボランティア活動を行うに当たって必要な資格(例えば防災士等)取得のため必要な費用を助成しています。登録、資格取得を希望される方は、支部長又は県事務局まで御一報を。ボランティアは随時、受け付けていますが、25年度に資格取得支援を希望される方は12月14日までにご連絡下さい。なお、県で募集している防災ボランティアに登録されている方は、防災ボランティア名簿で把握するので資格取得支援を希望される場合を除き連絡不要です。ボランティアの一例として自衛隊・自治体の防災訓練に係る企画立案・評価、自治体・特別会員への防衛講話、自衛隊員・家族に対するカウンセリング及び慰霊顕彰行事に係る連絡調整等

◆防災ボランティア募集状況
現在、12個支部、43名の方から登録の回答を頂いています。今後、貸与被服等の号文調査を行います。
◆24年度後期理事役会及び支部長等会議
25年3月12日(火)午後1時に予定しています。

隊友会防衛セミナー



10月5日(金)、新宿損保ジャパンビルにおいて第39回隊友会防衛セミナーが行われ、多数の会員が聴講した。グラントテーマ「台頭する中国とアジア・太平洋地域の安全保障」に基づき講師の宮脇淳子、数中三十二及び中西輝政の3氏は、アジア外交、日中及び日韓問題に関し、持論を展開された。特に宮脇講師の「中国と韓国は、事実をねじ曲げ、自国に都合のよい歴史を作る国」また中西講師の「中国」は名前のとおり「中々らしい国」との指摘には、この頃、両国の非常識かつ非礼な言動が目立つただけになかなか痛快であった。

ブロック研修会参加

平成24年度隊友会関東申信越静ブロック研修会は、神奈川県隊友会が主催し、9月25日（火）及び26日（水）の両日、海自横須賀地方総監部厚生棟他において行われ山田会長が参加した。初日は、統一テーマ「会勢の拡大、特に入会者増のための具体的活動の成功例と問題点」について各都県隊友会長が発表し、その後、陸自東方面事部長、海自横須賀管理部長及び空自中防衛課長から各自衛隊並びに神奈川県内の自衛隊・米軍の現況の説明があった。意見交換会は、隊友会地域担当執行役、神奈川県本部長始め部長、地元議員、市長及び協力団体等多数の方々が参加し盛り上がった。翌26日は、三等記念艦及び港湾内見学を行った。来年度の担当は茨城県隊友会。次が千葉県担当であり、今後PTを編成し有意義なブロック研修を実施出来る様にしたい。

予備自衛官講話

永井 博市川支部長は、10月23日（火）習志野駐屯地において召集訓練参加の予備自衛官28名に対し防衛講話を行った。本講話は、地本と連携し県隊友会による予備自衛官の一環として行っているものであり、今回は永井支部長が、この9月に実施された九都県市合同防災訓練の概要、首都直下型地震の被害見積、同地震発生時における自衛隊の行動、予備自衛官への期待及び災害時における隊友会の活動について熱弁をふるった。予備自衛官は、具体的な話を聞いて自己の役割・任務を再認識するとともに隊友会に対する関心を高めたものと思う。

平成24年度硫黄島遺骨帰還第2回特別派遣に参加して

1 全般

厚生労働省計画の硫黄島遺骨帰還特別派遣団員として、平成24年8月28日から9月5日の間、硫黄島における遺骨収容に参加させていただいた。硫黄島は亜熱帯気候で、かつ火山島で大変暑いなかでの遺骨収容活動であったが派遣団として3柱のご遺骨を収容する成果を収めることができた。

2 派遣団の編成

- ① 人員 団長以下57名（女性7名含む）
- ② 年齢構成の概観
 - ◆65歳以上 約1/3（最高齢者82歳の男性）
 - ◆30歳から64歳 約1/3
 - ◆29歳以下 約1/3（最若者19歳の女性）
- ③ 参加団体

3 遺骨収容日程

- ◆8月28日 厚生労働省に集合、結団式（本多総理大臣補佐官出席）
- ◆8月29日 入間基地から硫黄島へ移動（航空自衛隊飛行機C-130）、現地追悼式、フリーフィンク、本多総理補佐官との懇談会
- ◆8月30日～9月3日 遺骨収容活動
- ◆9月4日 使用器材等の整備、追悼式、離島報告
- ◆9月5日 硫黄島から入間基地へ移動、解団式（本田総理大臣補佐官出席）

4 遺骨収容場所

遺骨収容場所は硫黄島西地区（監獄岩の見える所）の崖に掘られた壕の中で、その大きさは、壕によってまちまちであるが高さ約1m×2m、幅約0.7m×1m、奥行き数m×30mが多い。

又、壕内温度は約35度～80度で所により水蒸気が噴出する場所がある。

5 遺骨収容要領

- ① 高温の壕内
 - ◆通風用のダクトを壕の中に設置し通風、排気を実施しながら低い姿勢で壕の奥まで前進、奥の方から壕底にたまって崩落した土の中のご遺骨、遺品、弾薬、装備品、生活用品を収容・収集して壕の外に搬出する。
- ② 比較的湿度の低い壕内
 - ◆壕内にある崩落した土等すべてのものを壕の外に運搬し壕外で収容活動を実施

6 感想

先の大戦において硫黄島で戦死された方は約2万1千名、そのうち帰還されたご遺骨は約1万1千柱でまだ約半数のご遺骨が眠っておられる現状、ご遺族の心情を思うと一日も早いですべての方々のご遺骨の収容を進めたいと思います。短期間の遺骨収容参加でありましたが非常に過酷な環境のもと遺骨帰還活動に重大な関心をもっておられる若年層から高齢者まで方々と一緒に活動できたことは今後の人生に大きな糧となりました。

感想

【四街道支部 久保 正治】

合 掌



今回の宿舎（海自施設）のベランダから南方を見る。左の海岸に米軍3個師団が上陸した。



摺鉢山に作ったモニュメントは、米本土に移送。同じ図案を島の北方にある日本軍の兵団司令部跡近くに残したものの。この付近でも捜索した。



今回、捜索・収容した洞窟。建設業者が大規模に再開したところ下部に洞窟が出てきた場所。島の北西地域。

24年秋の叙勲受章

おめでとーいございます 【敬称略・異不同】

瑞宝重光章

【浦安】 村木 鴻二（空）

瑞宝中綬章

【柏】 石田 潔（陸）

【船橋】 杉田 明傑（陸）

【四街道】 山口 利勝（空）

瑞宝小綬章

【流山】 市村 真一（空）

【船橋】 大内 恭武（陸）

【我孫子】 窪田 福己（陸）

【松戸】 豊嶋 尉史（陸）

【松戸】 越野 秀人（海）

【白井】 福井 孝三（陸）

【印西】 玉井 秀幸（海）

【柏】 津村 隆尋（陸）

瑞宝双光章

【館山】 佐々木 靖夫（海）

菅原 修（海）

内堀 隆（海）

【船橋】 日下 勝（海）

【習志野】 濱田 利夫（海）

【松戸】 西浦 邦雄（海）

【成田】 渡辺 駿（空）

瑞宝単光章

【松戸】 五十嵐 則雄（陸）

【成田】 磯尾 敦彦（陸）

24年9月・10月入会者

祝入会 【敬称略・順不同】

隊友会の発展にご協力を

【船橋】 高橋 祐二（陸）

【千葉若葉】 馬原 健治（陸）

【山武東金】 河村 克則（海）

【東総】 嶋田 力徹（陸）

【野田】 平野 治征（陸）

【木更津】 茂呂 正明（陸）

【館山】 上村 雅彦（海）

【浦安】 西野 哲（空）

ソマリア沖 アデン湾

海賊対処派遣隊員帰国

10月24日（水）、山田会長は、川村館山支部長、同支部員及び小倉理事役とともに海自第21航空群（群司令 中田芳基海将補）隷下第21航空隊所属の田川3海佐他7名の隊員の帰国歓迎会に参加した。8名の隊員は、第12次派遣海賊対処行動水上部隊（護衛艦「いかづち」及び「さわきり」の2隻で構成）の要員として去る5月11日横須賀港を出港し、アデン湾において哨戒ヘリSH-60K 2機による警戒・監視任務に当たっていたが、この度、任務終了につき帰国した。この歓迎式典には、派遣隊員ご家族を始め基地隊員、館山市自衛隊協力会会長（金丸謙一館山市長）及び多数の市議会議員等が参加し、盛大に帰国を祝った。赤銅色に日焼けた8名の派遣隊員は原隊復帰の報告を第21航空隊長に実施後、参列隊員・来賓の盛大な拍手の中、返礼しながら隊舎に帰った。



山作教育航空群司令式辞



列席する前任伍長

下総航空基地開



ラッパ出航用意！に焼き乾杯 3衛校長



国旗入場



快晴、爽やかな風に国旗が映える。神原松戸駐屯地司令式辞



SH-60K 2機で帰国



激励品を贈呈

下総航空基地後援

